

2日間連続

夏季集中研修「話し合い評価」教室における談話を捉え直す

日本語を学ぶにしても、考えるにしても、またそもそも日本語を使ってよりよく生きていくためにしても、日本語を使った自らの社会的実践を振り返り、問い直す、ということは非常に重要です。今年の夏季集中研修では、2つのワークショップ(以下WS)を行います。2日間じっくり時間をかけ、自身の社会的実践・教育実践に対するとらえ方を振り返ります。

※WSはどちらか一つしか参加できません。申込時に選んでください。

日時： 2015年8月8日(土)10~17時、8月9日(日)10~16時

※2日間連続講座です。1日だけの参加はできません。

会場： 東京大学 駒場Iキャンパス 21KOMCEE West

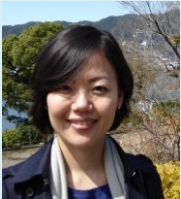
定員： 各WS40名(合計80名)、WSごとに先着順

受講料： 一般 12,000円 / 日本語教育学会員または大学院生 10,000円

申込締切
7月21日
先着順にて
受付中

【WS1】「話し合い」を評価する

-よりよい合意形成のために-



講師：柳田直美氏(一橋大学)

研修協力：森本郁代氏(関西学院大学)

コーディネーター：宇佐美洋(教師研修委員)

対象 社会生活における話し合いの改善に関心のある方(※本WSは、日本語教育関係者以外の方の参加も歓迎いたします)

家庭での小さな話し合いから、職場内の打ち合わせ、地域で起こった問題についての話し合い、また教室活動としてのディスカッションなど、私たちは日々様々な話し合いを行っています。異なる価値観や利害を持つ者同士がよりよい合意形成を行って行くために、この「話し合い」という動的・相互的な活動のさなかにおいて、どのような評価が行われているかを知る必要があります。

本WSでは「話し合い」についての協働作業を通じ、「よい話し合い」についてのイメージは人によってどのような違いがあるのか、価値観や利害の差異を乗り越えてよりよい合意形成を行っていくためにはどのような留意が必要なのかを考えていきます。

【WS2】教室における談話を分析する

-どう捉えどう生かすか-



講師：嶋津百代氏(関西大学)

コーディネーター：菊岡由夏・矢部まゆみ・

館岡洋子(教師研修委員)

対象 教室活動の質的分析に興味がある方

教室で日々繰り広げられるダイナミックなやり取りは、日本語教育に従事するものにとって、その教育の成果や学びを可視化する重要なデータです。一方で、そのデータを質的にどう読み解き、教育成果の把握や実践の改善にどう生かすのかは、我々にとって大きな課題と言えるのではないのでしょうか。

本WSでは、これらの課題を解消する手段の一つとして、談話分析の視点を取り入れることを考えます。具体的には、談話分析の概要やこれまでの研究事例について学び、談話分析の様々なアプローチから教室での活動を捉えます。最後に、談話分析を実践に生かす方法を探ります。

スケジュールと申込方法

◆日程：1日だけの参加はできません。2日間連続でご参加できることが応募条件です。

1日目：2015年8月8日（土）10：00～17：00

2日目：2015年8月9日（日）10：00～16：00

◆定員（先着順）：WSは事前選択制です。参加できるのはどちらか一つのみです。

・【WS 1】「話し合い」を評価する（講師：柳田直美氏） 定員：40名

・【WS 2】教室における談話を分析する（講師：嶋津百代氏） 定員：40名

◆応募条件：2日間の全日程に参加できる方で、各WSの事前課題をできる方。

（各WSの対象者は前頁をご確認ください。）

◆申込方法：申込書をEメール添付でお送りください。お電話等では承りません。

申込書は日本語教育学会ホームページ <http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm> からダウンロードできます。メールの題名は「夏季集中研修申込」としてください。申込書が届き次第、到着順に受領メールをお送りします。申込書を送っても受領メールが到着しない場合は、必ずご自身の責任においてメールの再送や電話等の別手段にてご確認ください。なお、本研修に関する連絡は基本的にEメールのみで行いますのであらかじめご了承ください（事務局対応時間は平日9～18時です）。

◆申込締切：2015年7月21日（火）※締切日前でも各WSごとに定員に達し次第、募集を終了します。

◆申込および問合せ先：

公益社団法人日本語教育学会 教師研修委員会事務局

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F 公益社団法人日本語教育学会

TEL：03-3262-4291 FAX：03-5216-7552 E-mail：kyoshikenshu@nkg.or.jp

◆◆◆よくあるご質問 Q&A◆◆◆

1. 2つのワークショップ（WS）に参加できますか？

できません。申込時に一つだけ選択してください。両WSともグループワークを中心に2日間かけて参加者同士でじっくり取り組むタイプの研修です。

2. 地方から参加します。大学の施設などに宿泊することができますか？

できません。お手数ですが参加者ご自身で近隣のホテル等のご予約・手配をお願いいたします。最寄駅にはホテルはございません。周辺のターミナル駅は渋谷駅となります。

3. 会場近くに昼食をとる場所がありますか？

大学の夏季休業中のため、学食や売店等は営業しないかもしれません。キャンパスの内外にカフェ、コンビニ等が数軒ございますが、ご持参を推奨いたします。

4. 受講料はどのように支払いますか？

事前銀行振込です。海外在住の方は、VISA・マスターカードでのお支払いも承ります。

5. 懇親会がありますか？

1日目終了後に学内の「イタリアントマト」で開催します。出欠を申込書にご記入ください。

【WS 1】の事前課題

「話し合い」を評価する -よりよい合意形成のために-

講師：柳田 直美 氏（一橋大学）

【事前課題】

あなたのこれまでの社会生活の中で、話し合いがうまく行かなくて困った経験を簡潔に記述してください。また、なぜうまく行かなかったのか、その理由についても考えてみてください（経験の記述・理由を含め600～800字程度）。

※お送りいただいた事前課題への回答は、参加者全員で共有します。

【事前課題提出日】 2015年7月31日（金）Eメール必着

事前課題に対する回答は、テキストファイル、あるいはWordファイル（「.doc」でも「.docx」でも可）の形式で作成し、Eメールに添付して日本語教育学会事務局 kyoshikenshu@nkg.or.jp 宛に提出してください。メールの題名は「WS 1 事前課題（受講者氏名）」としてください。

【参考文献】

大塚裕子・森本郁代 編著（2011）『話し合いトレーニング：伝える力・聴く力・問う力を育てる自律型対話入門』ナカニシヤ出版

【当日のスケジュール（予定ですので、一部変更する場合がございます）】

◆ 1日目 ◆ 10:00～17:00	
午前	趣旨説明・アイスブレイク 作業A：話し合いを評価し、評価の観点を整理する。 1. 話し合いの録画データに対して評価を行い、他の人の評価結果と比較する。また、なぜそう評価したのか、理由の違いを検討する。
午後	2. グループで話し合いを評価する観点を話し合い、話し合いの評価の観点を整理する。 作業B：話し合いを行う・話し合いを観察する。 1. 話し合いを行うグループと観察するグループに分かれ、話し合いおよびその観察を行う。 2. 話し合いの後、作業Aで整理した評価の観点に基づいて、話し合いを評価し、評価結果と比較する。 3. 話し合いの評価の共通点と相違点を共有する。
◆ 2日目 ◆ 10:00～16:00	
午前	作業C：評価表を使って話し合いを行う・話し合いを観察する。 1. 話し合いを行うグループと観察するグループに分かれ、話し合いおよびその観察を行う。 2. 話し合いの後、評価表を使って話し合いを評価し、評価結果と比較する。 3. 作業Bの評価と作業Cの評価の共通点と相違点を挙げる。
午後	作業D：自分の「話し合い」を振り返る。 1. 作業A～Cで気づいたこと・考えたことを書き出す。 2. グループで1.について整理する。 作業E：事前課題の解決策を考える。 1. 事前課題の解決策を考える。 2. 1.について全体で共有する 全体のまとめ

※申込書は、<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm> からダウンロードしてください。

【WS 2】の事前課題

教室における談話を分析する -どう捉えどう生かすか-

講師：嶋津 百代 氏（関西大学）

【事前課題】

研修受講料の入金確認後、日本語学習者間の会話を文字化したもの（A4で1枚程度）を、各受講生の方々にお送りいたします。そのデータに目を通し、感じたことや気づいたことなど、何でもかまいませんので、口頭で1~2分話せる程度に考えをまとめておいてください。ワークショップ1日目の「ワーク1」で、講師および他の受講生の方々と、皆様の感想や分析を共有させていただきます。

【参考文献】

- ・嶋津百代（2013）「日本語学習者の協働作成によるストーリー・ライティング-書き手と読み手の相互行為的な活動の考察-」佐藤彰・秦かおり編『ナラティブ研究の最前線-人は語ることで何をなすのか-』pp. 85-106. ひつじ書房
- ・嶋津百代（2005）「異言語話者のナラティブを研究する」西口光一編『文化と歴史の中の学習と学習者-日本語教育における社会文化的パースペクティブ』pp. 234-255. 凡人社
- ・嶋津百代（2003）「クラスルーム・アイデンティティの共構築-教室インターアクションにおける教師と学生のアクトとスタンス-」『日本語教育』第119号, pp. 11-20. 日本語教育学会

【当日のスケジュール（予定ですので、一部変更する場合がございます）】

◆ 1日目 ◆ 10:00~17:00	
午前	オープニング：企画主旨説明，質的研究と談話分析（コーディネーター：舘岡洋子） アイスブレイク：自己紹介 ワーク1：事前課題の談話データを見た感想と分析をグループで共有
午後	講義：談話分析の概要と分析事例 ワーク2：教室活動の談話データの分析 （講義で提供された視点を元に講師が用意した談話データをグループで分析します。）
◆ 2日目 ◆ 10:00~16:00	
午前	発表準備：ワーク2続き，および，発表用ポスターの完成 ギャラリーウォーク：ポスター掲示（発表）+見学 （作成したタスクと作業を通して得た視点や課題の発表/共有）
午後	ふり返し：各グループのポスターを見て気づいたことの共有 まとめ：談話分析を教室活動に生かす（講師より事例の提示） 閉会の挨拶，アンケート記入，講師への質問

※申込書は、<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm> からダウンロードしてください。

以上